Jazz Interview Vol.67

★今注目のピアニスト、コンポーザー & インプロヴァイザー！★

乾 帆奈【Hanna Inui】

国立音楽大学ジャズ専修卒業後、ニューヨークのニュースクールに編入し、ジャズピアノを専攻。2020 年度優秀生として卒業し、ジャズ専攻卒業生 10 人に贈られる初代 John Coltrane Award を受賞した経歴を持つ乾 帆奈（Hanna Inui）。

自身のプロジェクト＝ Quiet Quartet での活動の他、ジャズベースの巨匠レジー・ワークマンとマヤ・ワークマンの共同プロジェクト＝ Ophelia's Water の助手作曲家、ピアニストにも抜擢される。

今年 2021 年 3 月に待望の最新ソロ・アルバム『Lights, Like Running Horses』を発表した注目の女性アーティスト、乾 帆奈に話を聞いた。

【2021 年 11 月 取材・文 : 加瀬正之】

♪ まずは 2021 年 3 月に発表された最新ソロ・アルバム『Lights, Like Running Horses』について、コンセプトや自身のキャリアでどのような作品となったか聞かせて下さい。

恥ずかしい話なのですが、私は人に頼るのがとっても苦手で、まだコロナのワクチン接種も始まってない時に「全部自分でやっちまえ！」という半ば強引な発想で、一人で二時間だけ予約したピアノスタジオで iPhone やレコーダーで録った録音をまとめたものでした。まだミュージシャンという肩書きに見合っているのかという焦りも持っていた時期だったのもあるのですが、誰かのため何かのためというよりは自分の背中を押すために作ったものでした。

♪ コロナの影響でニューヨークでの生活も大きく変わったと思いますが、思うように演奏活動が出来なかった時はどのように過ごされていたのですか？ また、現在のニューヨークはどのような状況なのですか？

2020 年のほとんどはオンラインで音楽を教えたり、好きなダンスに時間を注いだりしていました。今ニューヨークで生演奏ができること、聴きに行けることへの感謝の気持ちはとっても大きなものになりました。とても嬉しいことにそれは他のミュージシャンや聴いてくれるお客さんの雰囲気からも伝わって来ます。

♪ ジャズとの出会い、ジャズ・ピアニストを志すきっかけについて聞かせて下さい。

高校時代に部活動でジャズビッグバンドに所属していて、ほとんどが楽器初心者だった中すごく上手いピアニストがいたのがきっかけでした。それから音楽を聴く時に、これ本当に人間がやってることなんだなと気が付くようになって（笑）それからジャズピアノへの興味が湧いていったのがきっかけです。

♪ 国立音楽大学ジャズ専修卒業後、NY のニュースクールで 2020 年度優秀生として卒業し、ジャズ専攻卒業生 10 人に贈られる初代 John Coltrane Award を受賞されましたが、ニュースクールでの生活や特別な思い出などありますか？

ニュースクールでは当時明け方の 2 時まで練習室が開放されていて、毎日最後まで残ってピアノをさわっていました。何曜日だったか覚えてないのですが、ある曜日は 2 時までだらだら練習した後に友達と集合してスモールズのセッションに遊びに行って、5 時に家についてその日の 10 時の授業に出るみたいな生活を繰り返してました。もう同じ生活はできません（笑）あとは友人のアパートに集合してセッションしたり、もうとにかくピアノを弾きまくってました。

♪ 乾さんが、影響を受けたジャズ・ピアニストを 3 人挙げて下さい。

Sullivan Fortner - どんなスタイルも行ったり来たりして聴く人も旅に連れて行ってくれるピアニストだと思っています。もう 5、6 年は好きなピアニストナンバー 1 です。

Lennie Tristano - ジャズなのに、こんなにスイングしてるのに、聴いててこんなに面白いのに重い！そんな印象です。

Andrew Hill - Bobby Hutcherson のアルバムで初めて聴いてからスッと「あ、この人の音楽とても好きだな」と思ったピアニストの一人です。

♪ ジャンルに関わらず、お気に入りのアルバムを 3 枚挙げてもらえますか？

「Roomful of Teeth」- Roomful of Teeth
「kikUUiki」- サカナクション
「The Audience With Betty Carter」- Betty Carter

♪ 今号の巻頭特集の【“ 現代版 ” ジャズ・ミュージシャン 3 つの願い（Part-6）】に 3 つの願いを掲載させて頂きましたが、願いの 1 つに「ライブミュージックとダンスが一つになったステージを実現させたい！」とありますが、具体的にはどのようなステージを描いていらっしゃるのですか？

大好きなジャズダンサーの Alina Sokulska とニューヨークで出会った LayeRhythm、Akram Khan の作品などから影響を受けているのですが、文字通りダンスと生演奏の音楽、そして何よりもダンサーとミュージシャンがコミュニケーションを取って創作する即興を中心にしたパフォーマンスです。

♪ 療養のために一次シアトルに滞在していたそうですが、活動を再開されるまで、様々な葛藤があったのでしょうね。

2020 年の夏頃は部屋からどころかほとんどベッドから出られない数日間もあったくらい精神的にダメージを受けていました。少しずつ自分から友達や家族に連絡をとるようになって、もっと自分から感情や言葉を発信していいんだなと気がついてから少しずつ音楽とピアノと創作活動に向かっていくようになりました。気長に待ってくれた家族や心配してくれた友人に、とにかく感謝しています。

♪ 生ける伝説とも言えるジャズベースの巨匠、レジー・ワークマンとマヤ・ワークマンの共同プロジェクト＝ Ophelia's Water の助手作曲家、ピアニストとして参加しているそうですが、レジーさんとの出会いとプロジェクトに関して聞かせて下さい。

ニュースクールのアンサンブルの授業でなぜかとても気に入ってくれて、その中で譜面制作のアシスタントやアレンジの依頼をもらうようになったことが大もとのきっかけでした。マヤの書く舞台に即興で音楽をつけるのですが、その形態（？）が自分にとってとても共感しやすかったのを覚えています。舞台はシリアスで変わってて、とても素敵な作品になっています。コロナの影響で現在映像化に向けて、また未来のライブ公演を視野に入れて製作中です。

♪ ピアニストとして大切にしていることは何ですか？

練習中は結果を急がないこと。演奏中は呼吸、身体にちゃんと酸素を送りこんであげること、それからその時が来るのをきながに待つことです。

♪ 音楽以外の趣味はありますか？

今はとにかくダンスが好きで、毎日ダンススタジオに通っています。

♪ 2022 年に予定しているプロジェクトはありますか？

色んなミュージシャンとそれぞれ違った方法でデュオのコラボレーションをしようと考えています。ライブではダンサーとのコラボレーションを積極的に取り入れていこうと意気込んでいます。日本でもしばらく創作活動を行う予定ですが、中身は 2022 年明けてからのお楽しみです。

♪ 乾さんの夢は何ですか？

どこにいようとこの先もずっと音楽と素敵な人たちに囲まれた人生を送りたいです。

♪ 最後に、「The Walker's」読者とファンに向けてメッセージをお願いします。

気がついていないかもしれませんが、生演奏でもライブ配信でも、聴いてくれている人たちからのエネルギーをたくさん頂いてます。どんな方法であっても、私たちの音楽に耳を傾けてくださって本当にありがとうございます。

【Hanna Inui official website】
https://hanna-inui.com

『Lights, Like Running Horses』

© Hanna Inui
2021.3.5 発売

Hanna Inui
(piano, electronics)

乾 帆奈の最新ソロ・アルバム！